



## 災害時の危機管理のあり方は

小村 初彦 (公明党)

**議員** 当市の危機管理体制についてお聞かせください。

**市長** 災害時の対応は、十和田市地域防災計画に定められた動員計画をもとに作成された初動態勢マニュアルに基づいて行っています。今回の震災では、震度五弱の地震が観測され、被害のおそれがあったことから、直ちに災害対策本部を設置し、被害状況の把握に努めました。

今回の震災を教訓として、今後とも市民、各種団体との連携を深め、防災体制の一層の充実に努めていきたいと考えています。

### 下平・東小稲線、平面交差の早期整備を

**議員** 下平・東小稲線と主要地方道三沢十和田線の平面交差による整備についてお聞かせください。

**建設部長** 立体交差は多額の事業費と沿道隣接地

が発展の阻害要因となることと考えられ、また地域住民からも利用しやすい平面交差による整備が望まれていることから、今年度に予定している都市計画街路の見直しに反映させることとしています。しかし、平面交差での整備は、高度な交通処理技術が求められるなどの課題も多いため、今後関係各機関と十分協議を進めていきたいと考えています。

### 高森山総合運動公園をスポーツ振興、活性化の大拠点施設へ

**議員** 高森山総合運動公園(サッカー場)を活性化の拠点にする考えはあるかお聞かせください。  
**教育長** 県サッカー協会では、フットボールセンタ



高森山総合運動公園サッカー場

ーを当市の高森山総合運動公園に決定し、今年九月ごろをめどに、市と連名で日本サッカー協会に申請する予定です。サッカーの拠点施設に指定されることにより、東北及び全国大会規模の開催が見込まれ、当市のサッカー競技人口の拡大、サッカーを通じた交流人口の増加、観光客の増加など、当市の活性化に向け、大きな役割を果たすことが期待されています。

## (仮)市民交流プラザ 市民との話し合いは

江渡 信貴 (高志会)



**議員** JA中央支所跡地に隣接する土地を買収して拡張する方向のように、地権者及び市民との話し合いはなされているのか。その経過と方向性について伺いたい。

**企画財政部長** (仮称)教育・福祉総合プラザは、平成二十二年に事業費の節減、遊休施設の活用、町なかへの機能分散の視点から再検討を行い、(仮称)教育プラザと(仮称)市民



(仮)市民交流プラザの建設予定地

交流プラザに分離して整備することとしました。十月十二日に関係団体と、十一月六日に市民との懇談会を開催し、意見交換を行っています。

今後の計画では、新たな市民検討委員会を立ち上げ、具体的な整備内容を検討し、それを基本計画に反映させたいと考えています。当該委員会は、平成二十年二月に策定した基本計画をベースに五回程度を予定しています。

### 市民交流プラザの具体的な内容の周知を

**議員** 建物の外観、容積は確かに「にぎわい創出

の観点からも重要であると思うが、拡張した分、つまり市民交流プラザとしての機能はそれによってどのくらい拡張されるのか。早期に利用目的、機能イメージを明らかにして市民によく見えるようにしてほしいが、現時点での構想を伺いたい。

**企画財政部長** (仮称)市民交流プラザは、子供から高齢者まで多くの市民が集い、さまざまな活動を通じて交流、連携を深める拠点になる複合施設を想定しています。この構想では、市民活動支援機能、親子で交流を深めたり、子育てに関する交流、仲間づくりができるような子育て支援機能、だれでも集い交流できるたまり場機能、社会福祉機能を持った施設整備を予定しています。また、市街地の活性化にも寄与する施設として、にぎわいをつくり出す機能が必要と考えており、利便性と機能性に優れ、人の流れが生まれ、だれもが気軽に利用できる施設にしたいと考えています。

\*1 フットボールセンター：日本サッカー協会が全国各県に一カ所指定する施設。都道府県レベルでのサッカー・スポーツのより一層の振興や、地域交流の拠点施設。